

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

| | | | | | |
|---------|--|-------|----|---------|----|
| 機 関 名 | 群馬大学 | | | | |
| 取 組 名 称 | 地域交流で生活の質を学ぶ実践的保健学教育 | | | | |
| 取組学部等 | 医学部保健学科 | | | | |
| 申 請 区 分 | 教育方法の工夫改善を主とする取組 | | | | |
| 整 理 番 号 | A22012 | 申請の形態 | 単独 | 取 組 期 間 | 3年 |
| 申請の分類 | 体験活動 | 職業教育 | | 地域活性化 | |
| キーワード | 地域交流教育, オフキャンパス授業, 地域交流教育人材バンク, 専攻横断的卒業研究, 地域の支え合い機能 | | | | |

<選定理由>

本取組は、地域交流、生活の質の尊重という視点から保健学教育に取り組んだプログラムとして高く評価できる。特に、地域交流教育プログラムを教養教育科目から卒業研究にいたるまで体系的に構想していること、地域でのオフキャンパス授業やゲスト講師の体験を題材とした問題解決型授業など地域と密着した授業を計画していることは、地域の保健・医療専門職を養成するという目的を達成する上で大きな意義を有するものである。さらに、これまで既に、大学が、地域貢献特別支援事業「地域リハビリテーション支援プロジェクト」等でこの取組を支援していること、また、県とも、「群馬リハビリテーションネットワーク」等を通じて緊密な連携をとってきていることなどから、取組の実現性も極めて高いと考えられる。

ただし、取組の評価体制については、これまでなされてきた学生による授業評価や教員個人の評価にとどまることなく、プログラム全体の評価や組織的なFDへの活用などにも取り組む必要がある。取組の実施に当たっては、これらのことにも対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要【1ページ以内】

医学部保健学科は教育目標に**生活の質**を尊重した保健・医療の担い手の育成を謳っている。しかし、核家族化の進む現代では、高齢者や障害者の生活に触れたことなく入学する学生は少なくない。実践の学である保健学をより魅力ある学問として教育するためには、**高齢者や障害者の生活**に対する体験的理解をもたらす教育が必要である。

本取組では、大学と地域とが育ててきた多様、多彩な交流を教育の資源とする**地域交流教育**を展開する。老老介護、閉じこもり、孤独死など幸福が脅かされている現場に学生を参加させる。さらに、これらの問題を解決するためには個人の健康長寿の実現とともに**地域の支え合い機能**をも高める施策「**健康長寿の地域づくり**」が必要なことを理解させ、“**地域振興施策にコミットできる保健・医療の専門職**”の育成に向けて、学生の能力開発をはかる。具体的には、**地域交流教育プログラム**として以下の3コースを実施する。

- ① コミュニティ参加コース：教養教育科目に「**生活の質と保健学**」を新設し、病院を超えて地域に拡がりつつある保健・医療の専門職の活動について教える。また、少人数学習形式で、村祭りなど地域行事に参加したり、介護の現場を訪問したりする**オフキャンパス授業**を実施し、その単位を既存科目の「国際・地域ボランティア研修」の単位として認定する。この科目はどの専攻のどの学年でも履修可能な科目であることから、地域の実情を学びたい時に学べる科目として活用する。
- ② コミュニティ理解コース：**地域交流教育人材バンク**をつくり、地域で活躍する高齢者や障害者、地域を担う専門職をゲスト講師に招き、**問題解決型授業**を行う。教養教育科目の「生命と健康」、専門基礎・支持的科目の「健康教育論」、専門科目の「症例基盤型実習」などの既存科目にその授業を組み込み、学生が高齢者や障害者と直接コミュニケーションをもつ機会やロールモデルとなる専門職と出会う機会を提供する。
- ③ コミュニティ研究コース：学生が所属専攻の枠を超えて指導を受けられることができる**専攻横断的卒業研究**の指導体制をつくる。地域リハビリテーションや地域看護学の教員を主に、医学系研究科の公衆衛生学関係の教員からのサポートを取り入れ、個人の健康問題と**地域の支え合い機能**の両面から考察する研究課題、例えば、介護負担感の軽減や閉じこもりの解消といった研究課題に学生が挑戦できる体制を整える。

以上3コースの共通教材として、本学収蔵の田邊文庫（哲学者 田邊元博士寄贈資料）を活用し、**生活の質**を深く考えるための小冊子「**人を知り地域を創る**」を作成する。

地域交流教育プログラムは既存カリキュラムと対応させて展開し、取得単位（成績）の明確化をはかる。本取組に対する内部評価はFDの**保健学教育ワークショップ**により行う。外部評価および他大学、行政、地域住民に向けた成果の発信については、研究者と群馬県、市町村、住民組織などの代表により組織する**地域交流教育評価・推進委員会**を設置して取り組む。以上を円滑に運営するため**地域交流教育推進室**を設置する。

医学部保健学科は群馬大学地域貢献特別支援事業として「**地域リハビリテーション支援プロジェクト**」を7年間継続してきた。本取組ではこの実績を背景に、**地域交流教育推進室**が中心となって地域に潜在している人材育成の力を発掘し、教育に取り込む。地域の人材育成の力が大学の教育の質を高め、大学の教育が地域住民の**生活の質**を高める。本取組により、地域と大学にこのような関係をもたらす**地域交流教育**の基礎を築く。